6/26 住民意見交換会(於：八幡タウン)での主なやりとり概要

○　①電力はどこに供給するのか②風車は何基建てるのか③風車の大きさは先行する地域でも 15MW級を導入しているのか④地震対策について、安心できる根拠はあるのか⑤漁業者への影響はどうするのか

→（県）①山形県内はもちろんのこと、東北や首都圏など他地域への供給も考えられる。②現段階で何基と断定することはできない。遊佐町沖の例として、系統接続する最大受電電力が 45 万 kW となっているので、風車の大きさが 15MWであれば、30 基程度と考えられる。③先行地域でもこれから建設予定のところはある。地域の景観や海底地形など様々な条件に適合するものが建てられる。④地震対策は国の所管。電気事業法に定める技術基準をクリアする必要がある。例え海外製であってもこの基準をクリアしなければならず、国が厳しく審査していく。⑤漁業者との話し合いはこれまでも何度も重ねてきた。酒田市沖の漁業者の方からも、「隣の遊佐町とは違う」「そんな簡単な話ではない。場合によっては廃業する可能性がある」などの御意見をいただいている。今後議論を深めていきたいと考えている。

○　風車を設置してどのような影響があるかが一番気になる。地域振興策も大事だと思うが、まずは騒音などの不安懸念への対策が優先。ヨーロッパでは、離岸距離を 20 ㎞以上離している。設置場所が離岸距離５ｋｍでは近すぎる。風車には航空障害灯も設置すると聞いたが、景観への影響が心配。

→（県）日本ではヨーロッパのような遠浅の地形が少なく、水深が一気に深くなる。また、想定海域について、遊佐町沖では、利害関係者を特定しやすいことから、共同漁業権の範囲の中で想定海域を設定して議論を進めてきている。また、騒音について、環境省が平成 29 年 5 月に指針を出しており、残留騒音＋５ｄＢを上限としている。全国一律の基準ではなく、地域ごとに合わせた基準を設けている。さらに、環境省では、風力発電施設から発生する低周波音と健康影響については、明らかな関連を示す知見は確認できないとしている。また、有識者からは、１ｋｍ以上離れると人体への影響は低いとしている。遊佐町沖の協議会意見とりまとめの環境配慮事項を参考に、今後議論を深めていきたい。

○　①先ほどから「議論を深めていく」と回答されるが、私はこの意見交換会の情報を広報で偶然見つけた。そして、参加している住民の数は少ない。これで「議論した」という大義名分にはならないのではないか②服部興野など陸上風車近くに住む人の話を聞くと、風車騒音による耳鳴りや頭痛に悩まされているようだが、医者に聞くと「これは低周波音が原因ですね」と言われない。そのため、

被害が報告されていないことになっている。③ＹｏｕＴｕｂｅで見たが、ゼロカーボンを達成しても、日本の平均気温は-0,006℃にしかならないとあった。再エネを進める必要はあるのか。

→（市）①今回の意見交換会の周知方法は、市広報、ＨＰ、自治会回覧板、そして若い人向けにも知らせるためＬＩＮＥの「さかたコンポ」により周知している。貴重なご意見として頂戴し、今後開催する場合はなるべく多くの人に周知できるよう検討していく。

→（県）②低周波音による健康被害があることは、これまでも実際に被害を受けているとする方からも直接ご意見をいただく機会があり、承知している。健康被害はあってならないものと考えている。なかなか評価しづらい部分ではあると考えるが、今後議論の中でしっかり検討していきたい。③本日は即答できかねるが、事業による効果について国に確認していく。

○　洋上風力発電には賛成だが、規模が 15MWとは聞いていなかった。なぜ、外国では 20 ㎞以上離しているのに、酒田市沖ではこんなに近いのか。本楯駅からやや離れているところに住んでいるが、電車の音が聞こえてくる。15MW級の風車の音であれば、必ず音が聞こえると考える。孫の代まで、酒田市はクリーンなエネルギーを推進している街だと受け継いでいきたい。風車騒音による影響は大丈夫であるというデータをしっかり示してほしい。

→（県）健康被害はあって良いものではない。今後議論を重ねていき、環境配慮事項に盛り込んでいく。また、国や有識者の見解などについて、引き続き情報提供させていただく。

○　様々な洋上風力事業の話し合いに参加している。洋上風力には賛成だが、これまでどこにも建てたことのない規模の風車とのことで、なぜこれだけの規模の風車を建てる必要があるのか分からない。小さな風車を沢山たてるなど、未知なものではない方法はないのか。

→（県）風車の規模は、国のエネルギーの開発目標のほか、事業者の採算性の話が関係してくる。これまでのＦＩＴ制度からＦＩＰ制度に変わっており、経済的合理性が求められてくる。なお、実際に建てられる風車は、今後議論の中で検討される。

○　市の説明に２点矛盾がある。①酒田共同火力発電の代わりに洋上風力発電を導入するというニュアンスの説明だが、風況によるため安定せず、また蓄電池も完成していないため、代わりにはならないのでは。②既に陸上風車の低周波

音による健康被害の声が上がっている。洋上風力発電による人口減少対策という説明があったが、特に若い世代は酒田市を離れてしまうのでは。

→（市）洋上風力発電を導入しても、需給バランスを保つため、酒田共同火力発電は当面必要と考えている。誤解を招いてしまったが、酒田共同火力発電が洋上風力発電に置き換わるわけではない。

○　①15MW級の風車が主流と説明されたが、どこで主流なのか。②欧州では 20㎞以上の離岸距離を確保している。今は浮体式の研究も進み、世界の動きが日々変わってきている。最新の研究や知見を収集し、人に優しい風車を建ててほしい。

→（県）①15MW級の風車は、日本にはまだ無く、諸外国で運用されている。②浮体式について、環境省が五島列島で実証し、商業運転しているものがある。それでも、日本の海象条件は厳しく、揺れると故障の原因になりやすいなど技術的には課題が多く、もう少し先の技術と理解している。

○　風車は、ブレードの向きを変えるときに外部電力を使う。日経ＴＲＥＮＤＹで、ブレードが無い垂直軸型マグナス式が紹介されていた。最新技術を取り入れるべきでは。

→（県）貴重な意見として頂戴する。

以上